

日本海水学会第1回若手の集い顛末記！

後藤 雅 宏*

平成13年度の海水学会研究発表会が九州エネルギー館で開催されるに先立ち、初めての若手の集いが、前日の夕刻KKRホテル博多で開催されました。初めての試みということで、皆さん、これはいったいどんな集まりだろうと思われたことでしょうか。そこで今回は、事務局からの要請もあり、若手の集い開催の経緯ならびに第1回の様子を紹介し、次回からの参考にしていただければ幸いです。

1. 若手の集いを行うようになったきっかけは？

あれは確かハーグ（オランダ）で開催された第8回塩世界大会の会場での会話がきっかけだったと思います。化学工学会や日本化学会では、若手が活発に意見を言う機会があり、また全国の若手が集う会があるということを後藤が述べました。すると近くにいた豊倉（前）会長と有田理事が、それは良い考えだ、海水学会でも是非いちど若手研究者に呼びかけてみてはどうかということになりました。おそらくこれが若手の集い開催のきっかけになったと思います。

2. 若手の集いの目的は？

さて、それでは若手の集いの開催目的は何でしょう。日本海水学会では、若手の会員の親睦（交流）を深め、また学会の活動を活性化し、さらには若手の会員の増強を目的にこの会を発足した、と最初の会では説明しました。しかし本会の目的も、今後若手の皆さんで大いに議論して欲しいと思います。また、若手の意見を理事会などに反映させる仕組みも必要になると思います。

3. 若手の集いでいったい何をやるの？

具体的にどのような活動を行うかはまったくの自由です。いろいろなテーマで議論することができます。

しかし、第1回の若手の集いでは、毎年全国大会の前日に若手会員が集まり、親睦を深める恒例の行事にすれば良い、という意見が多数でした。

4. 第1回では何をやったの？

第1回の若手の会の参加者は9名でした。北は秋田から南は熊本からの参加がありました。最初の会では、1)現在の年会について、2)会誌について、3)魅力ある学会にするには、という3つのテーマで意見交換を行いました。議論の中では、ポスター賞の制定は、若手にとって非常に励みになる。年会に2、3のシンポジウムを取り入れてはどうか。会誌に年会の優秀論文特集号を設定してはどうか。会誌に若手のコーナーを設けて欲しい。などの意見がだされました。

5. 今後の若手の集いは？

今回出席された9人の皆さんは、是非この会を続けて、年会の恒例行事にして欲しいという意見でした。終了後、何人かのメンバーは、博多の夜の町にくり出されたそうです。今回はお弁当形式の懇談会でしたが、参加者が多くなれば立食形式が良いという意見もありました。今回の参加者が周囲の人達に声をかければ、参加者は次第に増えていくことが予想されます。年会開催地区の特徴を生かして、いろいろな会の運営方法があると思われます。しかし、あまり負荷が掛からず、気軽に若手が集まれるざっくばらんな会を希望するという意見も出されました。この意味で、若手の集いは、ノーネクタイにするのも一案かもしれません。今後、若手の会が継続され、年会の恒例行事として定着することを期待しています。

* 九州大学 大学院工学研究院（〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1）